



校長室だより



令和6年1月17日

地震大国 日本

1月1日、北陸地方を襲った最大震度7の能登半島地震発生から17日目を迎えました。そして、今日は、29年前に震度7の「阪神・淡路大震災」が発生した日でもあります。能登半島地震においては、日を追うごとに事態の深刻さが浮き彫りになり、被災された人たちの苦悩は計り知れないものがあります。

寸断された道路や水道管の復旧は、ゴールデンウィークを越えてお盆の時期まで、あるいは年単位の時間がかかる予想されています。石川県で一時避難をしている人は約2万人、住宅被害は約1万2千棟、陸路・海路が使えないことから孤立集落へ物資を運ぶためにマンパワーを使っのバケツリレーが行われていること、寒波と重なる日は凍えるような寒さの中で精神的にも体力的にも過酷な避難所生活が続いていることなどを、みなさんも様々なメディアから見知っていることと思います。

今回の地震では、当初から特に水が使えないことについて、多くの被災者がその不便さを感じています。飲料用の水が十分でないことはもちろん、トイレが使えない、入浴や洗濯ができないという不便さを、私たちはどれほど現実的に想像することができるでしょうか。

そして、みなさんと同じ中学生が今どのような状況にあるかということ、輪島市の3中学校の生徒401人中約250人、珠洲市の4中学校の生徒199人中102人が親元を離れ、集団避難をすることを決心しています(1月16日時点)。各自治体は、今のままでは学校が再開できず、「学習環境が確保できないこと」と「高校受験への影響が大きすぎる」という判断により、最大2か月程度の避難期間を見込んで、「学習機会を確保する」ために集団避難の態勢を整えているようです。小学生は、親元を離れることでの精神面への影響が大きいとみて、対応は見送っているようです。

「当たり前のはずのことが当たり前でなくなる」とは、まさにこのことです。3学期のスタートにあたり、そんな状況に自分が置かれたとしたら、どんな気持ちで今この瞬間を過ごすのでしょうか。『今回の能登半島地震をわが身に置き換えて考えてほしい』と始業式でみなさんをお願いしたことをぜひ、実践してください。自分にできることは何かをしっかりと見据えてください。今、自分にできることを精一杯がんばることが、何よりも大切な応援になることを理解してください。中学生という同じ立場の仲間が、これほど過酷な環境のもとでも、あきらめずに努力しています。

51日間を大切に



3学期は休みの日を除くと、登校して学校で過ごす日数は51日間です。1年生は、次の4月には新入生を迎え、上級生としてリードしてあげられるように、今まで以上に自分の行動に責任をもち、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動する意識を高めましょう。2年生は、最高学年の3年生になるという自覚をもち、来年度のことを具体的にイメージしながら、個人としてあるいは学年としての力量を高めていきましょう。3年生は、緊張の日々が続きますが、進路を切り拓くために努力を尽くし、鹿ノ台中学校の生徒としての最後の時間を大切に過ごしてください。

保護者の皆さまへ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。今回の震災を受け、ここに生きているということ、寒さをしのいで暖をとれる家があるということ、飲み物・食べ物が自由に手に入ること、何気ない言葉や表情を家族や仲間と交わすことができるという穏やかな日常への感謝を忘れず、被災地の1日でも早い復旧を願いつつ、令和6年を乗り越えていきたいと思ひます。「南海トラフ地震」は今後30年間で70%から80%の確率で発生すると予測されています。地震が発生したときにどうするのか、ぜひ、ご家族でしっかりと話し合ってみてください。普段から「生命を守る」という心構えができていれば、突然の災害に対してもあわてないで対応できることがあると思ひます。

